

タイトル	異文化理解(タンザニア)		
氏 名	赤峰 一美		
学 校 名	大阪市立扇町総合高等学校		
担当教科	英語		
実践教科	英語 国際理解 校内教員研修	時 間 数	17時間
対象生徒学年	1年 3年 教員	対象人数	英語(118人) 国際理解(14人) 教員(30人)

カリキュラム案

(1) 実践の目的

- ・タンザニアについて情報を提供しながら、今回の研修で体験、学んだことを伝え、タンザニアの現状を知ってもらう。
- ・タンザニアでのJICAによる専門家、協力隊員や職員の方達の活動を伝える。

(2) 授業の構成案

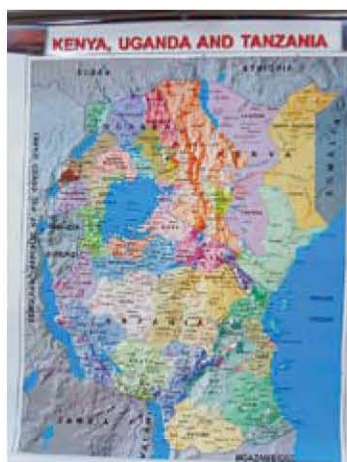
時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 (A) テーマ:タンザニアとは? ねらい:タンザニアについて基礎知識を持ってもらう	(1) 白地図とマップポスターで位置確認 (2) タンザニアの基礎知識を得る (3) タンザニアの教育について知る (4) 日本とタンザニアの比較	(1)マップポスター (2)プリント・タンザニアで収集した写真 (3)ランキング結果
1 限目 (B) テーマ:タンザニアとは? ねらい:タンザニアについて基礎知識を持ってもらう。	(1) 画面とプリントで位置確認 (2) タンザニアの物を見せ、何であるか考え説明させる (3) 写真の断片を配り、グループ分け→写真について考え、意見を述べさせる(タンザニアクイズ) (4) タンザニアについての情報が分かる映像を見せる (5) クイズの答え合わせをしながら、解説	(1)地図を載せた画面 (2)タンザニアで購入したもの (3)タンザニアで録った写真 (4)奈良テレビ放送の映像の抜粋 (5)プリント タンザニアで購入したカンガ

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
2－3 限目 テーマ：貧困について考える ねらい：アフリカでの貧困の原因の復習と、世界の置かれている現状を感じてもらう。	(1) アフリカの貧困の原因が何であるかの復習（予め貧困に関するデータマップの映像は1学期に見ている） (2) 「あいのり」（エチオピア編）の映像を少し見せる (3) 貿易ゲーム (4) 「あいのり」の映像で貧困についての解説を見る (5) 感想を述べあう (6) 世界にどんな問題があるかをまとめる（タンザニアでの水不足・電力不足について触れる）	(2)(4) 「あいのり」の映像 (3) 貿易ゲームの道具 (4) タンザニアで撮ってきた写真
4 限目 テーマ：タンザニアでの食事＆孤児院訪問について ねらい：タンザニアでの食文化について知る。孤児院の子ども達の様子を知ってもらう。自分たちの作ったしおりがどうなったかの報告。	(1) 食事の解説と「ウガリ」（予め放課後に試食済み）のアンケート結果報告 (2) 孤児院訪問について語る (3) 生徒が作成した「しおり」を渡してきたこと、子ども達の反応を伝える (4) 前回に学んだ貧困について、自分たちに何ができるかを考えて発表する	(1) 食事の写真 (2)(3) 孤児院での写真

実践授業の詳細

1 限目 (A)

まず、予備知識がないところでタンザニアについて知っていることをあげてもらった。どの授業でも、野生動物、キリマンジャロは知っていた。1年生は中学の英語教科書に載っていたティンガティンガを知っており、本物を見せると大喜びした。国際観光系列の3年生は、セレンゲティ国立公園、タランギレ国立公園、ザンジバル島などをあげ、タンザニアで購入した色鮮やかなポスターに駆け寄り、位置を確かめていた。(写真①)



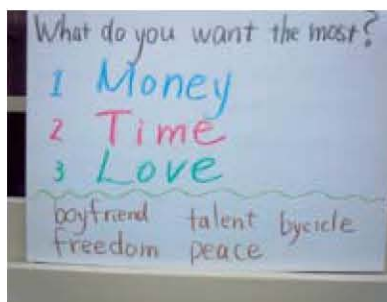
写真① マップポスター

タンザニアと日本を比較した表を使用して、タンザニアについて教えた。ドドマという聞いたことのない首都に興味を示し、街の様子や感想などを熱心に聞いていた。日本にはない公用語に関心を示したが、公用語であっても英語が話せない人々が多い現状を不可解に感じたようだった。そこで、隣国ケニアでの現状も紹介したら、納得していた。キリスト教徒やイスラム教徒が多いことや独立記念日があることから、交易や植民地時代等の歴史に触れた。あまりにも低いGDPに驚いていたので、村に住む人々の自給自足の生活についても紹介した。走行車線やハンドルが同じ側であり、日本からの中古車や単車が多く走っている現状をつげるとおもしろがっていた。(写真②)

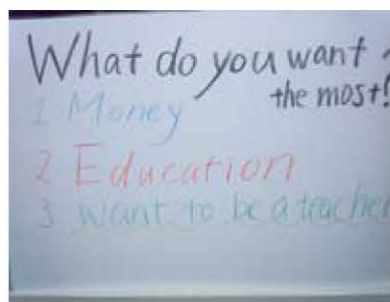
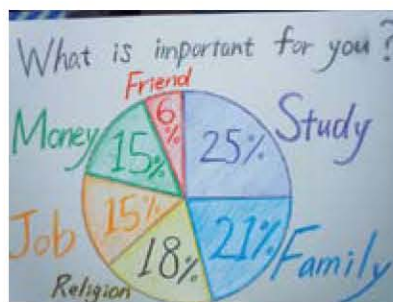


写真② 日本の中古車

一般知識の後、プリントを使用してタンザニアの教育制度を説明した。初等教育まで義務教育であるが、実際に通えない子ども達がいること、中等教育より全てが英語に切り替わることを気の毒に思ったようだった。ほとんどが高校に進学し、大学へは「全入時代」と言われる環境にいる生徒達には、進学率が低く、ごく僅かのエリートだけが大学に行く国(タンザニア)の存在を初めて認識したようだった。最後に、『ランキング』結果を発表した。(写真③) (写真④)



写真③ 『ランキング』扇町総合高校結果



写真④ キランガランガセカンドリースクール結果

タンザニア訪問前にアンケートを採っていたので、自分たち自身とタンザニアの生徒の結果を心待ちにしていた生徒達は、前のめりで聞いていた。タンザニアの生徒達の勤勉さを知り、自分たちを振り返り、それぞれが自分の勉強に対する姿勢を反省しているようでもあった。タンザニアで理数科教師として活動している青年海外協力隊員の人生にも興味を示していた。理数科の教員が不足している状況を知り、本校の教員を派遣すればいいとの意見も出ていた。両国ともお金が一番欲しいという意見に生徒達は大笑いをした。共通点を見いだしたと感じたようだった。

この授業では、常に日本とタンザニアを比較することで、生徒は英語で表現される日本とタンザニアについての知識を得られたと思う。実際にその土地に赴き、見たこと、感じたことを伝えたと生徒は通常より関心を示し、いきいきとした目で話を聞いていたので、私も嬉しかった。他にもいろいろな体験談を話したいところだったが、時間が限られていたので、この授業は教育に焦点をあてた。生徒は満足していたようだったので、安心した。時間があれば、動画を見せ、生徒自身が考え、まとまった意見を発表できる時間を与えたかったが、できなかった。

1 限目（B）

1 限目（A）を3クラスで実施した後、反省点を踏まえ、全く異なる展開で第1回目の授業を考えた。タンザニアの位置確認はプロジェクターで写した画像で行った。次に、タンザニアで購入したモノ（笛、櫛、ろうそく台、ペーパーナイフ）（写真⑤）を用いて『モノランゲージ』を行った。生徒達は、初めて手にする異国のモノに関心を示し、楽しそうに何であるか推測していた。それを使用する現地の生活状況を説明しながら正解を述べると、歓声上がるなど授業が盛り上がった。



写真⑤『モノランゲージ』



授業の様子

続いて、予め人数分に切っておいた7枚の写真（写真⑥）の断片を生徒に選ばせ、断片を合わせて写真とすることでグループ分けを行った。グループごとに話し合ってその写真の情景を描写させ、様々な角度からの意見が出たところで、正解とともにそれぞれの場面の背景を説明した。街や村の様子、物価、食生活、理学療法士として活動している青年海外協力隊員、植民地時代等の歴史、動物の生息する環境と人々との接点等、初めて知る情報に生徒達は驚いたり、笑ったり、納得したり、感心したり、様々な反応を示した。



写真⑥『フォトランゲージ』

次に『チェーンゲーム』を行った。（写真⑦）タンザニアに関する16コの質問の答えをつなげて輪になるように熱心に取り組んでいた。研修に同行された奈良テレビの方が制作されたビデオの抜粋を流すと、生徒達は集中して答えを確かめていた。最後に、答えのプリントを配布し、1つずつ見直すとともに解説を付け加えた。

タンザニアのモノに触れ、話し合い、自分自身で考え、意見をいう機会を持つことで、受け身ではなく自主的にタンザニアについて知ろうとする態度が見えた。写真や映像から、短時間で効果的にタンザニアという国を感じ、理解を深められたと思う。



写真⑦

2・3 限目

私自身が事前研修で『貿易ゲーム』に衝撃を受けたので、授業に組み込んだ。進行はほぼ研修で学んだ通りだが、最後のまとめの部分で、世界に存在する問題点と関連づけて、タンザニアでの水不足や電力不足の問題、そして、それらに対する私の気持ち、感じたことを交えて伝えた。「悲し

くなった」「飢餓の原因が自分たちにもあることを知らなかった」「世の中の格差を是正したい」「何か自分たちにできることはないのか」「私も将来、隊員になって活動したい」「他の生徒に伝えるために他の授業でもう一度して欲しい」など、各々が何かを感じ、多くを学んでくれたようだった。

4限目

手に入れた「ウガリ」の粉から「ウガリ」を作り、希望者には放課後に試食をしてもらった。（写真⑧）48名が「おいしい」、39名が「まずい」、「まあまあ」が0名と感じた結果報告から始め、孤児院訪問について語り、生徒達が作成した「しおり」を手渡し、喜ばれたことを伝えると、生徒達も嬉しそうだった。（写真⑨）前回に学んだ貧困についての意見を発表してもらった。「あまり肉をたべないようにする」「フェアトレード商品を買うようにしたい」「寄付をする」「日ごろの食事を疎かにしない」「最近、日本でも貧困が問題になっているが、アフリカの貧困とはまた異なるのが分かった」「貧困問題について初めて真剣に考えた」など様々な意見が出た。これらの意見を英語で発表させたので、問題についてよく考える力と英語力もつき、生徒たちの前向きな姿勢とその頑張りに感動させられた。

ウガリはどうでしたか？
○をつけてください。
おいしかった まあまあ まずかった
【コメント】



写真⑧



写真⑨

実践授業を通しての所感・反省と今後の展望

生徒たちの感想文から、今回、私がJICAの研修でタンザニアに行くことと告げたことで、いかに生徒達が私からの帰国後の話の聞くのを楽しみにしていたかを知った。実践授業から、生徒達は楽しみながらも多くのことを感じ、学んだようだ。タンザニアという彼らにとっては、場所も知らない、予想もつかない国に対する理解が深まっただけでなく、自国や自分たちの置かれている社会を見つめ直す良い機会となったようである。テレビや教科書から学ぶ外国ではなく、直接でなくても、自分の知っている人を介して人と人とがつながることにより親近感が沸き、地球上で同時代に生きる人間として、お互いを尊重する大切さを私も含めて生徒達、周りの方々も実感できた成果は大きかったと思う。このような機会を与えてくださり、感謝しています。